

日本教材学会第 35 回研究発表大会のご案内

2023 年 9 月 12 日
日本教材学会第 35 回研究発表大会実行委員会
委員長 小原 友行 (福山大学)

日本教材学会は、「第 35 回研究発表大会」を 2023 年 10 月 21 日 (土)、22 日 (日) の 2 日間、Zoom によるオンラインで開催いたします。新型コロナウイルス感染症が落ち着いて来てはおりますが、諸般の準備の都合上、オンライン開催となります。ご関心のある皆様方のご理解・支援で実りある大会となりますことを願っております。

つきましては、以下に説明いたします通りの方法と内容で実施いたします。参加費は無料です。是非とも多数のご参加いただきますようお願い申し上げます。

1. ZOOM による開催方法

自由研究発表各分科会、各研究プロジェクト発表、シンポジウム、総会、(理事会)、それぞれに ZOOM の会場が用意されます。各会場の ZOOM アドレスは事前申し込みをいただいた方に、別途メールにて「ZOOM 会場アドレス一覧表」にてお知らせ(事前申し込み受付期間終了後)いたします。10 月 12 日を過ぎても ZOOM アドレスのご案内が届かない場合は、お手数ですが研究発表大会事務局(guyto@fukuyama-u.ac.jp)までご一報ください。

2. スケジュール

◆研究発表大会日程・時程 (時間は、開始・終了時刻です)

2023 年 10 月 21 日 (土)

9:45	10:00		11:55	12:05	13:05	13:15		15:15
Zoom 接続 可能	自由研究発表① (4 会場) (各発表 25 分×3~4 本) [発表 20 分+質疑 5 分] ※発表間の入れ替え 5 分	休憩	理事会 (60 分)	休憩	シンポジウム 「近未来の教材を考える」 (120 分)			

2023 年 10 月 22 日 (日)

9:45	10:00		11:25	11:35	12:35	12:45		14:15	14:25	14:55
Zoom 接続 可能	自由研究発表② (4 会場) (各発表 25 分×3 本) [発表 20 分+質疑 5 分] ※発表間の入れ替え 5 分	休憩	総会 (60 分)	休憩	研究プロ ジェクト 2 会場 (各 90 分)	休憩	支部 総会 (30分)			

3. 事前申し込み

※必ず、以下より事前申し込みを行ってください。

受付期間 2023.9.21~2023.10.15

<https://forms.office.com/r/OXGic0r9bb>

ご入力いただく際、**特にメールアドレス**はよくご確認ください。ZOOM のリンクが送れなくなる場合があります。また、(guyto@fukuyama-u.ac.jp)からのメールが受け取れるよう、迷惑メールフィルター等の設定をご確認ください。

なにか問題があれば、研究発表大会事務局にお問い合わせください。



4. 発表構成

【シンポジウム】

テーマ「近未来の教材を考える」

○シンポジスト

- ・「教育ヴィジョン研究の視点から」 草原和博（広島大学）
- ・「教材のデジタル化の視点から」 二田貴広（奈良女子大学附属中等教育学校）
- ・「多文化共生教育の視点から」 南浦涼介（広島大学）
- ・「個別最適な学びの視点から」 奈須正裕（上智大学）

○コーディネーター

小原友行（福山大学）

○企画趣旨

およそ10～20年後の近未来を想定すると、社会やメディアの急速な変化に伴い、学びの主体である子どもたちや学びの場である教室・学校・地域の環境だけでなく、学びの素材である教材そのものの質も大きく変容していると考えられる。では、どのように変わっていくのであろうか、また変わらなければならないのであろうか。これらの問いは、日本教材学会の会員一人ひとりにとっても大きな課題であると考えられる。

そこで、本シンポジウムにおいては、「近未来の学びに求められる教材とはどのようなものか」「なぜそのような教材が求められるのか」「具体的にはどのような教材開発が必要になるのか」について、「教育ヴィジョン研究」「教材のデジタル化」「多文化共生教育」「個別最適な学び」という異なる視点から、それぞれのご専門の立場からの具体的な提案を頂き、全国各地の参加者とのZoomのチャット機能を活用したオンラインによる対話を通して、これらの課題解決に迫っていきたい。

【自由研究発表】

氏名	共同研究者	教科等	テーマ
＜10/21第1分科会：算数・数学＞ 司会：樺沢公一、田中始男			
矢田 敦之		算数・数学	「数学マジック」の実践とその教育的意義について
渡会 陽平		算数・数学	小学校算数科における「演算の意味づけ」についての再検討
樺沢 公一		算数・数学	立方体の対角線と等しい長さの線分を作図する問題に関する教材開発—生徒が問題解決において「対象／視点」を意識するよきを実感する指導を目指して—
＜10/21第2分科会：幼児期教育、外国語、家庭科＞ 司会：相澤一美、記谷康之			
三島 秀晃		幼児期教育	保育園におけるドキュメンテーションと指導計画の関係性—保育者の語りから読み解く根拠のある子どもの姿の記録—
筒井英一郎	坂井 昂 横川 尚哉 前畑 遥哉 大和田和治	外国語	口頭要約活動を支援する自動フィードバックシステムの開発
横山 美明		家庭科（プログラミング的思考）	小学校家庭科におけるプログラミング的思考の育成—調理実習計画場面におけるプログラミング教材の開発と活用を通して—
渡邊 明宏		幼児期教育	保育内容・教材としての伝承遊びと保育者の指導に関する一考察
＜10/21第3分科会：社会、生活・総合＞ 司会：小原友行、平伸二			
木野正一郎	田中 浩之 根本 徹	社会・昭和初期コアカリキュラ	戦後初期コア・カリキュラムの研究Ⅲ—横浜市立石川小学校の『石川プラン』にみる生活学習—
小原 友行		社会	「国際平和文化創造力」を育成する多文化間イシュー教材開発の新視点
根本 徹	木野正一郎 田中 浩之	生活・総合（環境体験）、幼児教育、教材論	地域における子供の自然環境体験の現状と課題— 横浜市新治市民の森を事例として —
関根 達郎		生活・総合「地域の教材化」	地域の教材化と地域学に関する研究—地域に学び、地域を呼び込む地域学習をめざして—

<10/21第4分科会：高等教育、教材論、その他> 司会：小松伸之、内垣戸貴之			
内垣戸 貴之		高等教育：キャリア教育	ピアコーチングをベースにしたオンライン教材の活用ー社会人基礎力育成を志向してー
矢澤 典子		教材論	民間教育や組織内教育における「教材・学習材の役割」の考察ー「教材・学習材の開発・活用による成果」に関する半構造化インタビューからー
下村 由香		その他：医療報酬	ブレンド型学習における、特性を活かした教材開発、授業設計に関するー考察ー短期大学の診療報酬請求事務授業を通してー
<10/22第5分科会：教科横断、社会、国語> 司会：苅間澤勇人、鈴木正行			
遠藤 清将	内山 正登	教科等横断的な学習	教科等横断的な学習におけるELSIをテーマとした教材の開発ー再生医療研究から学ぶ「科学の本質」と「患者・市民参画」ー
恒川 徹		社会	子どもの主体性を引き出す教材ー有田和正の教材論をもとにしてー
麻生 達也	茅野 政徳	国語	小学校国語科学習における「謎解き物語文」の教材化の可能性ー「謎解き物語文」を読み書きする中で、言葉への着眼力を高めるー
<10/22第6分科会：算数・数学、教材論> 司会：市川洋子、渡辺浩司			
東尾 晃世	柳本 朋子	算数・数学	空間図形の教材としての結び目ー観察してかく、想像してかくー
安達 心		教材論	知的好奇心育成に向けた教材づくりの視点ー報酬学習フレームワークとCiCフレームワークを用いた教材分析を通してー
花園 隼人		算数・数学	形式的証明の美的性質の感得を視点とした数学的カリキュラムの分析ー条件間の関係の扱いに焦点を当ててー
<10/22第7分科会：音楽、美術> 司会：石塚真子、安田暁			
飯村 諭吉		音楽	中学校音楽教科書における打楽器の指導内容の変遷に関する事例研究
恒賀 康太郎	西村幸一郎	美術	教員養成系大学における美術教育に関する指導方法の検討と実践 図画工作・表現(造形)における「習得・活用・探究」の学習過程を生かした教材開発
石塚 真子		音楽	音楽科教育における民俗芸能の探究型学習について
<10/22第8分科会：幼児期教育、道徳> 司会：腰川一恵、目下部典子			
中村 俊哉	中村 春菜	幼児期教育	エネルギー環境教育分野に関わるオーストラリアの絵本についての研究ー0から3歳児の対象とした絵本の分析ー
井口 眞美		幼児期教育	KAPLA®ブロックの遊びがもたらす教育的価値
石川 勝彦	百瀬 光一 下崎 聖	道徳	畏敬の念を喚起する道徳授業の向社会的行動への影響

【研究プロジェクト発表】

研究代表者	共同研究者	テーマ
石川 勝彦	百瀬 光一 下崎 聖	学習への没入を促す「畏敬の念」を喚起する授業原理と方法 ～学習の道徳基盤の解明を目指して～
藤井 大亮	朝倉 徹 前田 善仁 増田 有紀 細矢 智寛 木野正一郎	教材と教科教育の研究 ～データサイエンスの活用について考える～